

家を離れてはじめて家族のありがたさが分かりました。感謝の気持ちを大切にしてください。これからも頑張ります。



うちむらかすみ
● 内村和美さん
(大東町・20歳)

「はたちの願い」作文で優秀賞受賞

「はたちの願い」その他の優秀賞の皆さん

(50音順／敬称略)

いぶきさやか(今本町)、おがわあさみ(桜井町)、かとう
けんご(古井町)、そういへい(桜井町)、たけだゆき
ちばまどか(大東町)、つづきちあき(赤松町)、
なかいあや(今本町)、なかむらりか(新田町)

これからの自分

内村 和美

私の夢は保育士になることです。この夢は小学生のころからの夢でした。私が保育士になりたいと思ったのは、子どもが好きだったからです。中学生になっても、高校生になっても、この夢が変わることはありませんでした。そして、この夢をかなえるために、愛知県で就職進学をする道を選びました。親元を離れ、何も知らない土地に一人で行くのは不安もあったけれど、保育士になりたいという思いが強かったので、期待の方が大きかったと思います。しかし、考えていたよりも就職進学という道はとて厳しいものでした。仕事をしながら短大に通う毎日はとても

辛く、昔からの夢までも奪っていくこととしていました。こんな事をするために、こんな所に来たんじゃない。もう保育士になんかならなくてもいい。会社も短大も辞めて、地元に戻りたいと何度も思いました。毎晩のように泣き、自分だけがこんな嫌な思いをしているのだと思い、周りの人びとが楽しそうに笑ったりしているのに腹が立ったこともありました。しかし、私が泣いたり、辛そうにしていたらすると、いつも声を掛けてくれる友達がいました。私の話をいつも嫌な顔をせず聞いてくれました。その友達の前にはとても大きく、私が今もこうして愛知に残り、保育士という夢を追いかけているのもこの友達のおかげだと思います。

泣いていました。私もいろいろと考えた末に辞めたいと打ち明けたので、こらえていた涙が母につられてこぼれ落ち、二人で泣きながら話をしました。母の言葉の一つ一つがとても心に残っています。その言葉により私は絶対にこの生活に耐えて保育士になつてみせると思い直すことができました。母や友達、ほかにたくさんの人に支えられて私はここに残ることができています。

これから私は、二十歳をくぎりに感謝の気持ちを持つことを大切に、誰にでも親切な人でありたいと思います。また、夢をかなえるために、仕事も勉強も頑張り、みんなから信頼される保育士になりたいと思います。

(原文より一部要約)